

メルボルン大学学長一行が本学を訪問 「創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点」を設置 日本航空株式会社との連携協定を締結

お知らせ

・「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和3年度）」の概要について



全学ニュース

- 1 名誉教授称号授与式を挙
- 2 総応募数186件！DX博士人材フェローシップ制度のロゴマークが決定
- 3 第14回（令和4年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催
- 4 令和4年度出入国在留管理制度説明会を実施
- 5 東京大学・九州大学と学生合同グループワーク講座を開催
- 6 「創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED）」を設置
- 6 日本航空株式会社との連携協定を締結
- 7 令和4年度第3回 定例記者会見を開催
- 8 北大フロンティア基金
- 10 アルム株式会社と機械加工AIソフトの無償貸与契約を締結
- 11 創成研究機構が一般公開「キャンパスツアー2022」を開催
- 12 第17回北海道インドネシア留学生協会科学会議を開催
- 13 メルボルン大学学長一行が本学を訪問
- 14 研修会「北海道大学のSDGs達成への取り組みと教育研究活動」を開催
- 15 北海道大学サステナビリティ推進機構とSTV札幌テレビ放送株式会社が連携協定を締結
- 16 令和3年度第1回部局・分野横断技術交流会「Pythonから始めてみようICT活用」を開催
～北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラムマルチスキル人材育成プロジェクト～



総応募数186件！DX博士人材フェローシップ制度のロゴマークが決定



第14回（令和4年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

部局ニュース

- 17 文学研究院講演会「女性限定公募の現場から－大阪大学文学研究科の経験と課題」を開催
- 18 会計専門職大学院主催による公認会計士・監査審査会会長の特別講演会を開催
- 19 経済学部成績優秀者表彰式を挙
- 20 「ORACLEデジタルトランスフォーメーション（DX）入門セミナー」を開催
- 21 情報科学研究院が国土交通省北海道開発局との連携協力に関する協定書調印式を実施
- 21 函館キャンパスで『春のキャンパス一斉清掃』を実施
- 22 北図書館に「スペイン関連図書 特設コーナー」を設置
- 23 附属図書館が「文献収集セミナー（文系の方向け）」を開催
- 24 北極域研究センターが北海道フィンランドウィーク「サイエンスDAY」をハイブリッドで開催

お知らせ

- 25 「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和3年度）」の概要について

博士学位記授与 26

表敬訪問 28

人事 29

訃報

- 31 名誉教授 岡田 尚武 氏
- 32 名誉教授 荒谷 登 氏

資料

- 33 令和3年度卒業・修了者の就職等状況一覧



日本航空株式会社との連携協定を締結



北海道大学とアルム株式会社が機械加工AIソフト無償貸与契約を締結



創成研究機構が一般公開「キャンパスツアー2022」を開催



情報科学研究院が国土交通省北海道開発局との連携協力に関する協定書調印式を実施

表紙：メルボルン大学学長一行が本学を訪問（関連記事13頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景[®] 高等教育推進機構周辺（北17条西8丁目）

■全学ニュース

名誉教授称号授与式を挙行

先に本学名誉教授に決定された方々（60名）に対する称号授与式が、6月7日（火）に関係者列席のもと、オンラインにより執り行われました。

出席された方々に、寶金清博総長から永年にわたるご尽力への感謝の言葉が述べられました。

（総務企画部人事課厚生労務室）



寶金総長による挨拶

総応募数186件！DX博士人材フェローシップ制度のロゴマークが決定

北大生を対象に募集をした、DX博士人材フェローシップ制度のロゴマークが決定しました。総応募数186件の中から選ばれたのは、福原明日香さん（応募当時は文学部4年生）のデザインです。

ロゴデザインは、「D」「X」の文字を元に作成。

5つのひし形がスタイリッシュな印象を与える一方、若葉のような鮮やかな緑色は優しい印象を与えます。

また、ロゴは見方によって、クローバー・魚・弓・北の漢字などに見え、多様性を表現しています。



**Hokkaido University
DX Doctoral Fellowship**

DX 博士人材フェローシップロゴ

ロゴを作った福原さんからのメッセージ

「北大は緑のイメージ。でも、いつも使われているグリーンは濃いため重い印象があります。なので学生を支援する明るく温かいイメージの若草色を使いました。」

福原さんは、約1年半前にロゴデザインコンテストに挑戦し始め、3月に文学部を卒業した後はフリーランスのデザイナーとして活動を始めました。

副賞10万円の使い道を聞くと、「ま

ずは、ずっと欲しかったデザインの本を買いました。」と、仕事、プロとして成長したい、という意識を感じられました。

DX博士人材フェローシップ生へ

「研究活動は苦しく悩むことも多いですよね。

私も卒論でかなり苦しみました。

最終的に手を動かすのは自分です

が、「支えてくれる人」はたくさんいます。

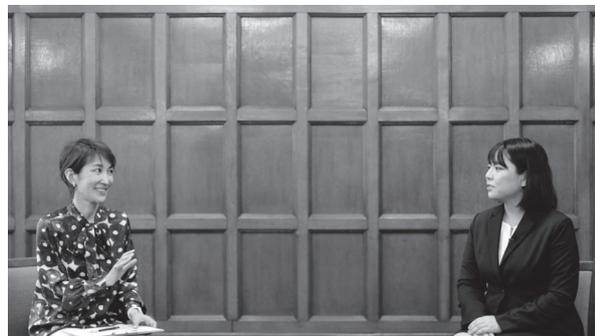
このロゴにも“支える”という想いを込めました。

周りの人の力も借りながら、充実した博士課程を過ごしていただきたいです。」

(学務部学務企画課)



卒業生の福原さん



左から理学研究院・大津珠子准教授と受賞者の福原さん

第14回（令和4年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院教育コースでは、6月18日（土）に高等教育推進機構において、第14回メンターフォーラムを開催しました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じ、自身のキャリアパスをより具

体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催されています。

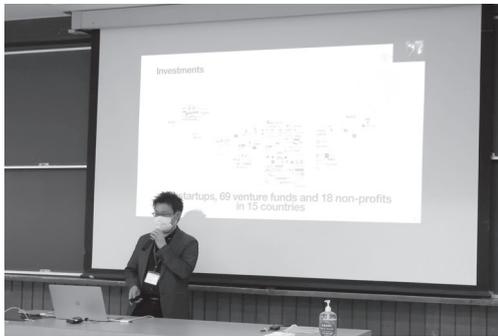
当日は、第1部として講演会を行い、『キャリアパスを考える』のテーマで、7名のメンターに、ご自身のキャリアや実社会における経験に基づくアドバイス等について英語でご講演いただきました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部では、新渡戸カレッジ生が各メンターに自由に質問し対話を行う交流会として実施しました。新渡戸

カレッジ生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスをもらうことができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくことができるか等について、貴重な洞察を得ることができたようです。

（学務部教育推進課）



講演会様子（左：中島 徹メンター、右：集合写真）



交流会におけるメンターとの対話の様子

令和4年度出入国在留管理制度説明会を実施

6月10日（金）、本学学術交流会館講堂にて出入国在留管理制度説明会を開催しました。

本説明会は「北海道留学生交流推進協議会」の事業の一環として、本協議会関係者向けに最新の正しい出入国在留管理制度の情報を提供し、制度への理解を深めることを目的とし毎年開催しているものです。出入国在留管理局等から講師を招いて行っており、今回の参加者は道内各地の26団体から計83名となりました。

令和2年度、同3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため対面での開催を中止し、オンライン会議システムを利用して同説明会を実施しましたが、令和4年度は3年ぶりの対面開催と

なりました。会場の収容人数に対し入場者数を3分の1以下に制限する、会場では消毒液を用意し、会場内での会話を控えるよう要請するなど、十分な感染対策を行っての対面実施となりました。

説明会では、法務省札幌出入国在留管理局審査部門の石川悠人審査官より「出入国在留管理制度について」の講義があり、最新の入国者の動向や制度について説明がありました。

次に北海道農政部生産振興局畜産振興課の早川 潤主査から「家畜の海外悪性伝染病と農場の自衛の取組について」、続いて農林水産省動物検疫所北海道・東北支所検疫課の佐藤隆一技官から「肉製品の違法持ち込み防止に向

けて」の講義があり、家畜伝染病の傾向と対策及び肉製品の持ち込み厳格化に関する内容が紹介されました。質疑応答では、事前に受け付けた質問に対する回答を含め、最新の留学生や研究者の入国に関する措置等について丁寧な説明がなされ、大変有意義な説明会となりました。

本説明会は、「申請等取次申出書」の添付書類となる経歴書に記入できる「出入国在留管理行政に関する研修会等」に該当するため、申請等取次者証明書の交付を希望する受講者には研修会受講証明書を提供しております。

(学務部学生支援課)



感染対策を行って開催した会場の様子



札幌出入国在留管理局 石川審査官による説明



北海道農政部生産振興局 早川主査による説明



農林水産省動物検疫所 佐藤技官による説明

東京大学・九州大学と学生合同グループワーク講座を開催

6月7日（火）、東京大学・九州大学と合同で、インターンシップに向けたグループワーク講座をオンラインで開催しました。

当日は三大学からの参加学生がそれぞれ10のグループにわかれ、共通のテーマでグループワークを行い、最後には全体に向けて発表を行いました。ほとんどの参加学生にとって、他大学の学生とのグループワークやグループディスカッションを行うのは初めてのことでしたが、初対面のメンバーと短い時間でそれぞれの価値観を示しつ

つ、結論に向かってディスカッションを行い、全グループが時間内にしっかりとまとめあげていました。

当日は全国から企業10社に協力をいただき、各グループのディスカッションを企業目線でサポートいただくとともに、発表後にはディスカッションのプロセスや内容、発言などについて、丁寧に各学生に対し、個別のフィードバックがありました。終了後も個別に学生からの質疑に対応いただき、学生からは「他大生がいる中、企業人事の方が実際にいる中で練習をすることが

でき、大変いい経験になりました」「企業の人事の方から非常にためになるフィードバックをもらえました」などのコメントがあるなど、他大学の学生や企業の方の考えに触れることができる貴重な場となりました。

全国の企業、遠方の大学とつながることができるオンライン開催ならではの場として、今後も時期や内容を変更して実施していく予定です。

（キャリアセンター）

日時：2022年6月7日（火）16:00～18:00

会場：オンライン

主催及び協力：株式会社ジェイ・ブロード、北海道大学キャリアセンター、東京大学キャリアサポート室、九州大学学務部奨学支援課

協力企業：旭化成株式会社、日本電気株式会社（NEC）、キャノン株式会社、京セラ株式会社、西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）、日産自動車株式会社、株式会社ニトリ、日本ガイシ株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社ゆうちょ銀行

参加者数：60名

グループワークテーマ：多様な人材が活躍できる企業の条件とは

「創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点 (D-RED)」を設置

7月1日(金)付けで、総長直下の組織として「創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点 (Data-Driven Interdisciplinary Research Emergence Department: D-RED)」を設置しました。

本拠点は、第4期中期目標期間における本学の6つのビジョンのひとつである「データ駆動型の『北大』」の実現に向けて一翼を担う組織であり、特に数値根拠に基づく本学の強みとなる融合研究領域の抽出機能及び課題解決に取り組む企業のニーズに応える機能、さらにデータ駆動型社会の融合研究の推進機能を整備し、学術融合分野

の創発や新たな学術連携・産学連携の構築により、本学の強みの創出を強く推進するものです。

また、課題解決型の先端融合研究を行い、実証・社会実装を同時に進めていくというエコシステムを実現し、地域の課題解決に繋がる研究開発及び強みを生かした多様な研究活動を推進・共創する拠点を目指し、本学発スタートアップ企業の創出へと繋げるため、地域連携による新たな価値共創の実現に貢献していきます。

(研究推進部研究支援課)



寶金清博総長から辞令を受けた長谷山美紀拠点長

日本航空株式会社との連携協定を締結

本学は、6月7日(火)に、日本航空株式会社(以下「JAL」)との連携協定を締結しました。

同日に行った協定締結式及び記者発表には、JALから赤坂祐二代表取締役社長ら3名が、本学から寶金清博総長、山口淳二理事・副学長が出席し、JALの客室乗務員として活躍する本学卒業生2名の司会進行により執り行い

ました。

参加した記者からは多くの質問があり、特にJALグループの航空機が収集したデータを用いての調査・研究構想に高い関心が寄せられました。

寶金総長からは、これまでにない重要なデータが得られることへの期待とともに、本協定のもとで北海道を舞台に様々な社会課題の解決に取り組み、

世界に発信することによって持続可能な社会創りをリードしていく旨の抱負が述べられました。

今後、本学とJALは、温暖化対策、地域活性化、人材育成等の観点を中心に協業していきます。

(社会共創部社会連携課)



赤坂代表取締役社長と寶金総長



本学を卒業し、客室乗務員として活躍する齋藤夢乃氏(左)、酒井玲奈氏(右)



抱負を述べる寶金総長

令和4年度第3回 定例記者会見を開催

6月16日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。
吉見 宏理事・副学長（広報・社会連

携室長）の進行のもと、ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点の新ナチュラルチーズ開発チームから工学研究院の大沼正人教授及び酪農学園大学の農食環境学群の金田 勇教授が発表

し、北海道教育庁記者クラブ加盟社等から5名の参加がありました。発表内容は以下の通りです。

（社会共創部広報課）

発表事項（発表者）

- ・“酪農 x (かける) 工学” による “シン・ナチュラルチーズ” 開発
（ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点 新ナチュラルチーズ開発チーム
工学研究院 教授 大沼 正人、酪農学園大学 農食環境学群 教授 金田 勇）
- ※発表資料掲載URL
<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/pr/press-conference/R4.html>



定例記者会見の様子



発表を行う大沼教授



チーズを手に笑顔の大沼教授（左）と酪農学園大学の金田教授（右）



当日の発表者と吉見理事・副学長（左から吉見理事・副学長、大沼教授、金田教授）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額 (5月31日現在)

33,488件 5,915,645,468円

5月のご寄附状況

法人等20社、個人245名の方々から23,248,690円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名 (法人等)

株式会社アイ・アイ・エス さくら幸子探偵事務所、會澤高圧コンクリート株式会社、アジア航測株式会社、株式会社アルピノ、株式会社大林組 札幌支店、株式会社キスラ、国土防災技術株式会社、株式会社コングレ、株式会社コンベンションアカデミア、株式会社常光、積水化学工業株式会社、株式会社つば八、株式会社土井商店、日本工営株式会社札幌支店、株式会社北海道クボタ、ポップコーン株式会社、丸大大金ハム株式会社、株式会社ロジネットジャパン

寄附者ご芳名 (個人)

合川 正幸	青木 俊介	浅野 哲也	姉崎 朋祐	阿部 雅史	安保 真一	石井 哲夫	石井 信行
石塚 敏	石丸 謙造	板垣 雅	板垣 剛	井野 智	猪股 路子	井原 博	入澤 秀次
上田 敦	上原 信二	後木 利三	梅本 由佳	縁記 和也	遠藤 公憲	大湯 歩	大谷 恭久
大津 珠子	大野 泰熙	大原 正範	大森 優子	岡 國太郎	岡本 正芳	奥田 英信	小澤 宗之
押切 孝	小田原一史	小原 大和	影井 公一	加藤欽一郎	加藤 順一	金川 眞行	上市眞一郎
河本 充司	衣川 暢子	木村 祐介	桐山 宏紀	久保 康一	窪田 開拓	久米 宏毅	黒柳 俊雄
古梶 正洋	小島 修二	小菅 充	小西 秀和	小林 賢人	小林 清一	小山 邦武	近藤 健
齊藤 晋	齋藤 久	齊藤 義徳	佐伯 竜子	坂本 大介	定光 秀弥	佐藤 敦	佐藤 直
佐藤 初美	三升畑元基	塩川 哲男	茂野由美子	志済 聡子	柴田 祐次	渋谷 進	渋谷 正人
下岡 靖宜	白津 文夫	申 偉秀	菅原 新也	杉江 和男	鈴木 貴之	関崎 勉	瀬戸 務
瀬名波栄潤	高木 清晴	高田 裕二	高橋 直哉	竹内 義治	武田 飛鳥	武政 栄治	田嶋 朝子
巽 聡子	田所厚一郎	田中 享	谷 道夫	土家 琢磨	寺井 康文	寺澤 睦	戸城 博行
戸田 信之	富田 裕	豊田 威信	内藤 有恒	内藤 宏昌	中塚 英俊	仲 裕	新美 大伸
西田 実弘	野坂 雄幸	芳賀 永	花田 秀一	原 高太郎	樋口 恵一	福士 幸治	福田 文治
福永 悟郎	藤澤 裕子	藤田 篤	藤野 正勝	藤原 靖司	船津 定見	古川 俊実	堀江 醇
前田 博	牧野田裕子	升光 法行	松井 博和	松沢 幸一	松田 祐吾	松原 謙一	松本 周介
松本 範雄	真屋 幹雄	丸田 雅博	三浦 正	三段崎俊彦	水谷 純也	三津 正人	三村 道丸
宮坂 知宏	宮澤 達也	宮田 信幸	三輪 憲	村瀬徳啓充	毛利 哲夫	森 和弘	門出 健次
矢嶋 剛	安 健	山本 雅彦	横田 秀一	横山 考	吉沢 正道	吉澤 守	吉田 広志
和田 武夫	和田 孝一	渡辺明日香	渡部 涉	王 磊			

銘板の掲示 20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

(個人)

安保 真一、石塚 敏、小澤 宗之、押切 孝、武政 栄治、田嶋 朝子、原 高太郎、牧野田裕子、松本 範雄、水谷 純也、吉沢 正道、渡部 渉

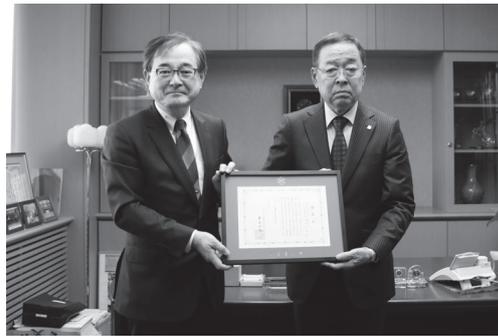
(法人)

會澤高圧コンクリート株式会社、株式会社コンベンションアカデミア、丸大大金ハム株式会社、株式会社ロジネットジャパン

〈感謝状の贈呈〉



一般財団法人 砂防・地すべり技術センター 様
(令和4年6月2日)



大地コンサルタント株式会社 様 (令和4年6月3日)



真屋 幹雄 様 (令和4年6月8日)



鈴木 正司 様 (令和4年6月8日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

(社会共創部広報課)

アルム株式会社と機械加工AIソフトの無償貸与契約を締結

本学は6月1日（水）付けで、アルム株式会社（石川県金沢市、代表取締役CEO：平山京幸氏）と、グッドデザイン賞 2021、総務大臣賞等を受賞した同社開発製品の人工知能（AI）搭載機械加工プログラム自動生成ソフトウェア「アルムコード1」*の無償貸与契約を締結しました。

同日、創成研究機構で締結式も行われました。はじめに増田隆夫理事・副学長と平山CEOにより、感謝状及び無償貸与書の取り交わしが行われました。続いて、増田理事・副学長から北海道大学における研究活動のデジタル・トランスフォーメーション（研究DX）の推進、本契約の意義等の説明と、平山CEOからアルムコード1の機能や将来構想の説明がありました。その後、グローバルファシリティセンタ

ー試作ソリューション部門技術スタッフによる自動切削加工のデモ実演見学会が開催されました。

当ソフトウェアは、理学研究院技術部、工学研究院工学系ワークショップ、低温科学研究所装置開発室、電子科学研究所機械工作室、触媒科学研究所研究支援技術部の5か所に導入されます。研究に必要な機器や部品の製作過程の自動化を図ることで、機械加工に携わる技術支援スタッフの負担が軽減され、研究活動のDXが推進されるとともに、学外からの加工依頼の受入れも増加する効果が期待できます。

*アルムコード1：

アルム株式会社が独自開発し、令和3年にリリースしたソフトウェアです。多品種少量生産を行う部品加工企業において、属

人的なNCプログラミング工程をAIの活用により完全自動化する機能を有します。3DCAD図面データを読み込むだけで、①0.2mm間隔で形状解析、②図面だけでは判断しづらい特殊形状を識別し加工種別を正確に割り当て、③独自アルゴリズムで最適な工具を選定し、④最適な加工条件を選定、⑤効率的な工具走行経路を自動計算、⑥加工プログラムを自動作成します。グッドデザイン賞2021、令和3年度起業家万博・総務大臣賞、NoMaps Dream Pitch 2021・北海道経済産業局長賞を受賞するなど、高い注目を集めています。

アルム株式会社ホームページ

<https://arumcode.com/>

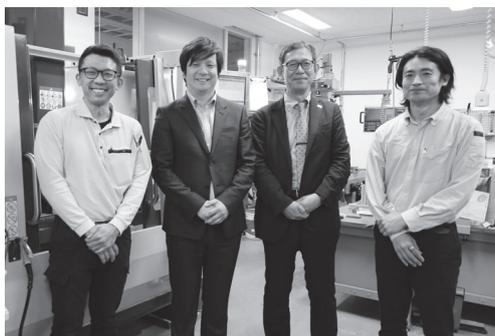
（創成研究機構グローバルファシリティセンター）



増田理事・副学長（左）と平山CEO（右）



デモ実演見学会



（左から）武井将志技術専門職員、平山CEO、増田理事・副学長、楠崎真央技術専門職員

創成研究機構が一般公開「キャンパスツアー2022」を開催

6月4日（土）、創成科学研究棟にて、創成研究機構 一般公開「キャンパスツアー2022」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの実施となった今回は、人数を制限しての現地開催に加え、オンラインでの生配信も行いました。現地では32名、オンラインでは40名以上の参加があり、小学生から大人まで幅広い世代の方に楽しんでいただくことができました。

堀内浩水URAの司会進行のもと、増田隆夫創成研究機構長/理事・副学

長の挨拶に始まり、「46億年前にタイムスリップ！リュウグウ誕生のみみつ」と題したサイエンストークでは、創成研究機構/理学研究院 冨本尚義教授が、小惑星探査機「はやぶさ2」が持ち帰ったリュウグウ試料の分析から見えてきた最新の研究成果を紹介しました。その後、分析に用いられた同位体顕微鏡と、「グローバルファシリティセンター（GFC）オープンファシリティ部門」の見学を行い、盛況のうちに終了しました。

参加者へのアンケートには、「冨本

先生に直接質問できて嬉しかった」、「貴重なサンプルや機器を見ることができた」、「道外からの現地参加は難しかったため、オンライン配信はありがたかった」といった声が寄せられました。当日の様子はニュース番組や新聞にも取り上げられ、多くの方に当機構で行われている最先端の研究について知っていただくことができました。

（創成研究機構）



講演する冨本教授



質疑応答の様子



リュウグウのレプリカを手にとる来場者たち（写真提供：広報課）



GFCでの共用機器を使った演示実験の様子

第17回北海道インドネシア留学生協会科学会議を開催

6月11日（土）、北海道インドネシア留学生協会による第17回科学会議（the 17th Hokkaido Indonesian Student Association Scientific Meeting, HISAS17）が、オンラインで開催されました。『Sustainable Development Goals (SDGs)-based research to support Indonesia into an advanced nation by 2045（2045年までにインドネシアが先進国となるためのSDGs関連研究）』をテーマに、ヘリ・アフマディ駐日インドネシア共和国特命全権大使と株式会社中山組代表取締役社長であり、在札幌インドネシア共和国名誉領事の中山茂氏の挨拶で始まりました。本会議は、28名のポスター及びペーパー参加を含む118名を集め、テーマへの関心の高さを伺わせました。

本学からは、横田 篤理事・副学長が出席し、本学のSDGs関連研究についての現状紹介や、Times Higher Education Impact Rankings 2022で本学が世界10位となった結果からの振り返り及びインドネシアの研究機関との過去10年の研究連携分野傾向から見る今後の連携の可能性について講演を行いました。また、保健科学研究所の山内太郎教授が『Co-creating Future Sanitation Systems with Local Actors（地元活動家との将来のサンテーション・システム共創）』について、工学研究所の大竹 翼准教授が『Sustainable development of mineral resources in Indonesia（インドネシアの鉱物資源の持続可能な開発）』について、農学研究所のマリア・ステファニ・

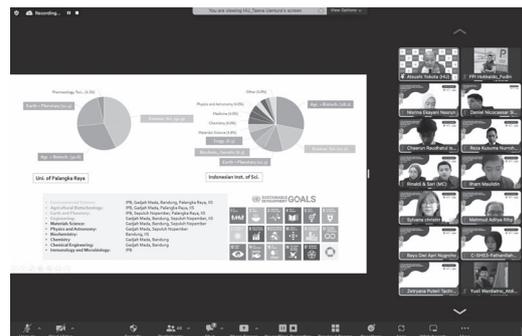
ドゥイヤンティ助教が『Tocopherol Biosynthesis and Its Regulation in Soybean（大豆におけるトコフェロール生合成とその制御）』について講演を行いました。

日本居住者のみならず、インドネシア、マレーシア、サウジアラビアともオンラインで繋ぎ開催された本会議は、工学、先端科学、環境・自然科学、保健・生命科学、人文社会科学と幅広い分野について発表・質疑応答が行われ、駐日インドネシア共和国大使館のユスリ・ワディアトノ教育文化部長による閉会挨拶で、和やかに締めくくられました。

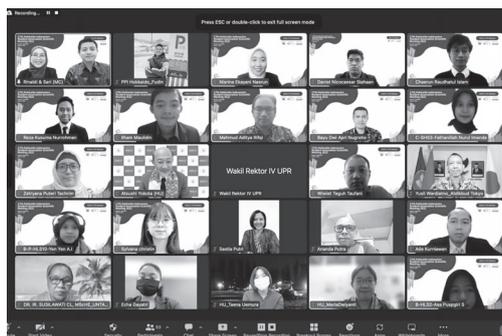
（国際連携機構）



横田理事・副学長の講演



講演の様子



集合写真

メルボルン大学学長一行が本学を訪問

6月27日(月)、メルボルン大学からダンカン・マスケルVC (Vice-Chancellor; 学長相当)、ジェイムズ・マクラスキー研究担当DVC (Deputy VC; 理事相当)、ジャスティン・ゾベル大学院研究&国際研究担当PVC (Pro VC; 副理事相当)、マーク・キャシディ工学・情報科学研究院長、ティモシー・リンチ国際担当教養学副研究院長、マーガレット・メイフィールド生態学部門長(理学研究院代表として来訪)、ジェイムズ・ハッチソン理学研究院上級講師、ミカ・シモダ理学研究院研究支援担当、マリア・ロイトマン国際研究副部長、マーク・グレゴリー国際研究戦略アドバイザーの計10名が北海道大学を訪問しました。

本学とメルボルン大学はこれまで、昨年10月に行われた研究・国際研究担当執行部間のダイアログに基づき、本年3月に「北海道大学-メルボルン大学ヘルシーエイジングに関するバーチャルコンファレンス」を開催しました。

今回、マスケルVC一行は、既存連携先である人獣共通感染症国際共同研究所、電子科学研究所を訪問した後、今後の可能性を見据えてICReDD、スペースミッションセンター、陽子線治療センターの研究施設を訪問し、さらに大学病院、医学研究院、工学研究院、理学研究院、先端生命科学研究院、メディア・コミュニケーション研究院の各部局長等と会談を行いました。また、夕刻には本学とメルボルン大学が共同出資する、「Hokkaido-Melbourne Joint Research Workshops Fund (共同研究ワークショップスファンド)」採択授与式を開催しました。

当該ファンドは、両校の研究者が最低1名ずつ代表者となり合同で申請するもので、初回となる今回は北海道開催3件、メルボルン開催2件の計5件のワークショップが採択されました。採択された本学工学研究院の森 太郎教授、大橋俊朗教授、文学研究院のケリン・ヤコブス特任准教授、保健科学研究院の澤村大輔講師の4名へはマスケ

ルVCより、来学中であったメルボルン大学理学研究院のハッチソン上級講師へは寶金清博総長より、それぞれ採択証書が授与されました。

横田 篤理事・副学長(国際・SDGs)の司会で行われた授与式においては、マスケルVCからは初渡日の訪問先が北海道大学となったことへの想いと今後への期待が、マクラスキー研究担当DVCからは電子科学研究所のナノマテリアルから陽子線治療センターの巨大な機器までスケールの違いを含めた可能性を見せて貰ったとのコメントが、寶金総長からは先住民研究、研究林、練習船を含む新規交流可能性の候補が示され、増田隆夫理事・副学長(研究・産学官連携)より双方の産学官連携拡張への思いが語られました。昨年のオンライン・ダイアログに端を発する全学連携について、今後の強化が期待されます。

(国際連携機構)



参加者集合写真



寶金総長、マスケルVCと採択者たち



マスケルVC



マクラスキーDVC

研修会「北海道大学のSDGs達成への取り組みと教育研究活動」を開催

6月28日（火）、サステナビリティ推進機構SDGs事業推進本部は、大学院教育推進機構高等教育研修センターとの共催で大学等の教職員を対象に、研修会「北海道大学のSDGs達成への取り組みと教育研究活動」を開催しました。

本学の第4期中期目標・中期計画（2022-2027年度）の大学独自の項目として、北海道大学設置の経緯やその発展の歴史を踏まえつつ、美しいキャンパスや広大な研究林など、同大学が保有する物的・知的資産を活用し、また、地方自治体や国内外の大学等と連携を図りながら、持続可能な社会の構築に資する教育、研究、社会連携などを推進することにより、比類なき大学として、SDGsの達成に貢献することを掲げております。

研修会はZoomによるオンラインで実施されました。研修は二部構成で、第一部：横田 篤理事・副学長、第二部：出村 誠総長補佐・教授が講師、加藤 悟サステナビリティ推進機構・教授が進行を担当しました。

第一部では、サステナビリティ推進機構設置の経緯の紹介から始まり、札幌農学校として開校した本学設置の経緯と発展の歴史、開学以来、教育と研究を通じてサステナビリティへのDNAが培われてきたこと、そしてそれが現在のSDGs活動に繋がっていることが説明されました。現在の本学のサステナビリティ活動は、大学の社会貢献の取り組みを国連のSDGsの枠組みを使って評価するTHEインパクトランキング2022で、世界1406校の中で10位（国内1位）と評価されたこと、今後の社会連携と研究戦略等についても紹介されました。

第二部では、教育改革に関する内容が紹介されました。2022年度から高校の新学習指導要領が実施され、SDGs探究や社会貢献に関心が高い世代が大学を目指すことへの入試広報の重要性、入学後のサステナビリティ・SDGsを学ぶ教育環境づくりとして既存科目のSDGs分類一覧の提供、専門横断科目「国際SDGs入門」開講の紹介、大学院の持続可能な開発を実現す

る国際協働型人材育成プログラム、Hokkaidoサマー・インスティテュートのリカレント教育コースなどが紹介されました。また、教員のためのSDGs概要eラーニング研修動画が学内公開されていること、授業で利用できるSDGs教育メディア「SDGs.TV」を北大で利用できることなども紹介されました。

最後に本学のSDGs教育環境への展望が述べられ、質疑応答の後、研修は終了しました。本研修会の動画は、後日、本学教職員限定で公開する予定です。

なお、本研修会は学内外から120名以上の方々にご視聴いただきました。参加された皆様に感謝申し上げます。

サステナビリティ推進機構は、学内外の協力を得ながら、持続可能な社会の構築に資する活動を推進して参ります。

（サステナビリティ推進機構）



講演を行う横田理事・副学長



講演を行う出村総長補佐

北海道大学サステナビリティ推進機構とSTV札幌テレビ放送株式会社が連携協定を締結

7月1日（金）、サステナビリティ推進機構と札幌テレビ放送株式会社は、SDGsの推進とその達成の加速に貢献するため連携協定を締結しました。

締結式には、本学から寶金清博総長、横田 篤理事・副学長（国際、SDGs担当）と出村 誠総長補佐（サステナビリティ推進機構）、札幌テ

レビ放送株式会社からは井上 健代表取締役社長、坪内弘樹常務取締役（SDGs担当）と五味 宏SDGs推進室兼報道局解説委員が出席し、寶金総長と井上代表取締役社長からそれぞれ、今後の展望が述べられました。

サステナビリティ推進機構と札幌テレビ放送株式会社は、この協定に基づき、SDGs達成へ取り組み、世界の

課題解決に貢献し、地域活性化や学生、市民らの成長と発展につなげられるよう、事業の企画と実施及び情報発信を行うとともに、パートナーシップのもとに相互の強みを活かし、協力しあうことで北海道及び道民の持続的発展に寄与していきます。

（サステナビリティ推進機構）



左から寶金総長、井上代表取締役社長



抱負を述べる寶金総長



司会を務めたSTV久保朱莉アナウンサーと、どさんこくん

令和3年度第1回部局・分野横断技術交流会 「Pythonから始めてみようICT活用」を開催 ～北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラム マルチスキル人材育成プロジェクト～

令和3年10月から令和4年2月までの5ヶ月間を通して、部局・分野横断技術交流会「Pythonから始めてみようICT活用」を開催しました。

本技術交流会は、技術職員が自ら企画、運営、講義を行い、スキルの継承・伝達・強化を図り、また異分野の技術職員と技術を通して交流することで、技術職員の全学的な人材交流・技術情報交流・技術強化をはかる事を目的とした北大コアファシリティ構想研究支援人材育成プログラム、マルチスキル人材育成プロジェクトの事業として行われました。

令和2年度に実施した部局・分野横断技術交流会「Arduinoを研究支援活動に活用してみよう！」のアンケートにおいて、Raspberry Piを用いた遠隔操作やPythonプログラミングの基礎といった内容に興味がある方が多く、また多様な分野での情報技術の活用機会が増えつつあることから、初学者の方も学ぶことができ、既に技術を習得済みの方をメンターとして実際の活用

方法や知識を共有することができるコミュニティを目指して交流会を開催しました。

初学者の方が基礎から学ぶ方法として、数理・データサイエンス教育研究センターの協力のもと、webブラウザ上でPythonコードを実行できるe-learningプラットフォームを活用しました。交流会は、Zoomを用いたオンライン形式で、月1回開催し、技術職員の各現場での課題を共有し、プログラミングを活用した課題解決の方法として、「帳票自動作成アプリ」「センサーを活用したIoT機器の試作と設置検討」「プログラマブルドローンの活用検討」などを行いました。

参加者は6部局からなる計24名であり、技術支援本部におけるユニットとしては、分析系、実験実習系、工作・観測系、フィールド系、情報技術系の5ユニットでの構成となりました。実施後のアンケートでは、満足度や活動の意義について高い評価が得られ、さらに参加者から「分野が異なっていて

も、たくさんの学びがあった」「様々なツールや手法を知ることができた」「新しい発想のヒントや課題の共通点が見えて有意義であった」「周りに相談することで解法が増え、視野も広がった」との意見も得られ、本事業の目的に寄与できました。

主催：技術支援・設備共用コアステーション (CoSMOS)

共催：創成研究機構 グローバルファシリティセンター

数理データサイエンス教育研究センター、高等教育研修センター

コーディネーター：

工学研究院工学系技術センター

技術部 大塚尚広

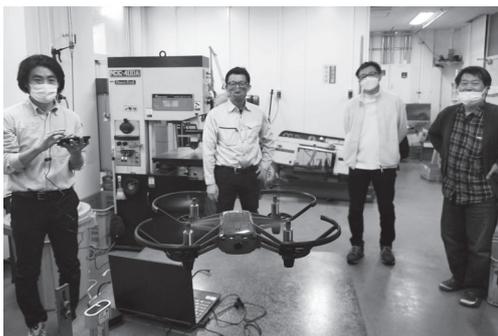
電子科学研究所技術部

遠藤礼暁

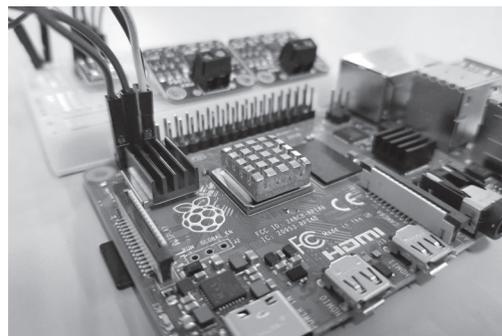
アイソトープ総合センター

阿保憲史

(技術支援本部)



プログラマブルドローンの活用検討の様子



センサーを活用したIoT機器の試作

■ 部局ニュース

文学研究院講演会「女性限定公募の現場から —大阪大学文学研究科の経験と課題」を開催

文学研究院では、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部との共催による講演会「女性限定公募の現場から—大阪大学文学研究科の経験と課題」を6月10日（金）に対面及びオンライン形式で開催しました。

本研究院では、女性教員比率向上に向けて今年度始めて女性限定公募を行うこととなり、女性限定公募導入に係る教職員の理解を深めるため、本講演会の開催を企画しました。講師には、大阪大学文学研究科・文学部で女性限定公募の導入に尽力された、同大学文学部長の栗原麻子教授をお迎えしまし

た。

講演会は、藤田 健文学研究院長による挨拶と本研究院の現状報告で始まり、その後、栗原教授から、最初に大阪大学のダイバーシティ・インクルージョンに向けた取り組みの紹介があり、続いて大阪大学文学研究科・文学部における女性教員比率向上に向けての対応、女性限定公募の導入プロセスとその成果、女性教員採用後の支援とこれからの課題について、具体的事例・数値を挙げての説明がありました。

講演終了後には質疑応答の時間が設

けられ、特に女性限定公募の導入にあたっての課題や成果について意見交換が行われました。

本講演会には、58名が対面またはZoomで参加し、本研究院にとって、今後取り組むべき方向性の示唆が得られた有意義な講演会となりました。なお、講演会の模様は録画され、後日文学研究院構成員並びに全学の教員にも提供される予定です。

(文学研究院・ダイバーシティ・インクルージョン推進本部)



藤田文学研究院長による開会の挨拶



講師の大阪大学文学部長 栗原教授

会計専門職大学院主催による公認会計士・監査審査会会長の特別講演会を開催

会計専門職大学院主催により、6月6日（月）、人文・社会科学総合教育研究棟において、金融庁公認会計士・監査審査会会長の松井隆幸先生(元青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科教授)を講師にお招きし、「拡大する公認会計士の役割」と題して特別講演会を開催しました。

公認会計士・監査審査会（Certified Public Accountants and Auditing Oversight Board: CPAAOB）は、社会全体の会計・監査水準の維持・向上を目的として、平成16年に金融庁に設置された機関です。監査事務所に対する審査及び検査や、国家試験である公認会計士試験の実施、諸外国の関係機関との連携・協力等を通じて、会計・監査の専門家として高度の倫理観を備えた質の高い人材の輩出に尽力し、資本市場の信頼性確保を通じて、日本経済の健全な発展に貢献しています。

松井会長は、公認会計士の使命につ

いて「監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与すること」と紹介されたのち、監査により財務書類等の情報の信頼性を確保するという点について、ディスクロージャー制度における監査を引き合いに、その意義や監査人の要件についてご講演されました。続いて、公認会計士の試験制度について最新の動向に触れながら紹介するとともに、その制度の根底には公認会計士に対する信頼性の確保があることに触れ、社会からの信頼の重要性について説明されました。さらに、上場会社等の監査が公認会計士にのみ認められた大変重要な社会的役割であることから、公認会計士は監査人であるという認識が存在する一方で、そのイメージ上の業務に限定

されるものではなく、幅広く様々な領域で活躍している実態についてお話になりました。監査法人では会計監査業務だけではなく、IPO支援業務やアドバイザー業務に従事する機会があり、この社会的な要請が高まっていることや、監査法人以外にも活躍が求められる機会が多々存在することを紹介され、高度な会計人材が場所を問わずに経済社会の様々な分野で必要とされている側面について熱弁されました。

当日はハイフレックス形式での開催となり、134名の対面参加者と、約100名のオンライン参加者による、会計専門職大学院の院生及び経済学部の学生約230名の参加があり、講演後も学生による松井会長への個別質問が相次ぐなど、大盛会のうちに幕を閉じました。

(会計専門職大学院)



講演を行う松井会長



講演の様子

経済学部成績優秀者表彰式を挙行

6月23日（木）、経済学研究院研究棟において、「経済学部成績優秀者表彰制度」による表彰式を行いました。

「成績優秀者表彰制度」は、前年度1年間の履修科目において優秀な成績を修めた学生の中から、学部長が学生の模範となるような成績優秀者を選

考・表彰するとともに、Dean's List（成績優秀者名簿）に登載し、末永くその努力と名誉を讃えることを目的としており、3年次学生10名、4年次学生10名の計20名が受賞しました。

表彰式では、久保田肇学部長から受賞者へ表彰状と副賞が手渡され、祝福

の言葉が述べられました。

経済学部では、今後も学生の学習意欲向上を促すための取組みを行っていく予定です。

（経済学部）



本年度の受賞者（撮影の時のみマスクを外しました。）

「ORACLEデジタルトランスフォーメーション (DX) 入門セミナー」を開催

北海道大学DX博士人材フェローシップは、5月26日（木）にPh.Discoverプロジェクトとの共催により、「ORACLEデジタルトランスフォーメーション (DX) 入門セミナー」を開催しました。日本オラクル株式会社は、データ科学をベースとした先進的な取り組みを進めるIT企業で、北海道大学DX博士人材フェローシップの外部協力機関としてプロジェクトの運営に関わるほか、これまで、本学のDX教育プログラム等の取り組みにおいて支援をいただいています。

はじめに日本オラクルの人見尊志氏（戦略事業推進本部本部長）より、DXとは何か、オラクルのDXに対する

取り組みについてご紹介いただきました。続いて、鬼澤美穂氏（デジタル・トランスフォーメーション推進室ブランドマネージャー）に、DXを進める人材に求められるものは何かについてお話しいただきました。最後に松井雄介氏（クラウド営業本部担当アカウント・エグゼクティブ）から、令和3年度に日本オラクル、富良野市、北海道大学の産官学が連携して実施したDX教育プログラムの報告（<https://phdiscover.jp/phd/article/1380>）と、同4年度DX教育プログラムの募集についての案内がなされました。

Zoomを用いたハイフレックス形式で開催されたセミナーには、理学部オ

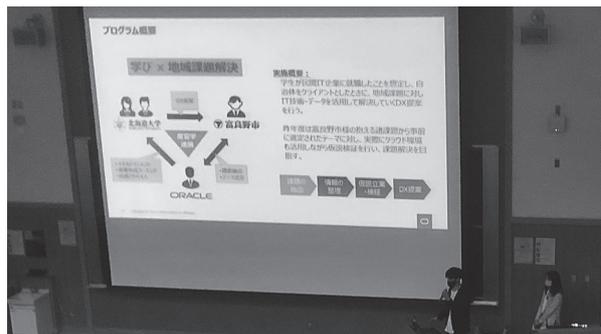
ンサイト会場に23名、またオンラインにて50名を超える参加があり、質疑応答ではオンサイト、オンライン双方から博士学生による質問が寄せられました。本セミナーを契機として、「専門分野の深い知識や理論、技術に習熟し、ITやAI等のデジタル技術の素養を兼ね備え、自ら実社会の課題を抽出し、その課題をDX的手法によって解決する」DX博士人材が育ち社会に貢献することを期待します。

詳細は：
<https://phdiscover.jp/phd/article/1460>

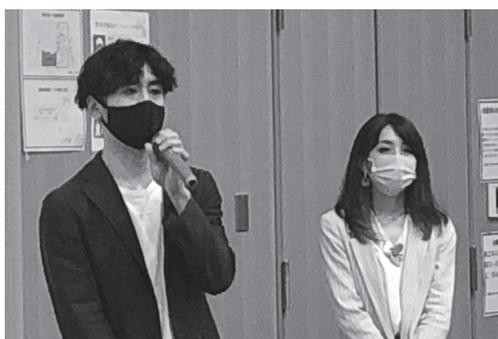
（理学院・理学研究院・理学部）



オンラインにて講演する人見氏



産官学連携のDX教育プログラムについて報告する松井氏



博士学生からの質問に答える松井氏と鬼澤氏

情報科学研究院が国土交通省北海道開発局との連携協力に関する協定書調印式を実施

6月24日（金）、情報科学研究院と国土交通省北海道開発局は、北海道開発分野における社会資本整備や維持管理、防災対策等について協定を締結しました。調印式には、北海道開発局から橋本 幸局長と、本学からは長谷山美紀副学長・情報科学研究院長が出席

し、橋本局長と長谷山副学長・情報科学研究院長からそれぞれ、今後の展望が述べられました。

本研究院では、この協定に基づき、両者の連携による研究・技術開発や高度な専門的知識を有する人材の育成を進め、インフラ管理の効率化などの地

域課題を情報科学とインフラ管理という異分野の融合が生み出すイノベーションによって解決し、北海道固有の地方創生に寄与する取組の一層の推進を図ります。

（情報科学研究院）



左から長谷山副学長・情報科学研究院長、橋本北海道開発局長

函館キャンパスで『春のキャンパス一斉清掃』を実施

5月20日（金）に、函館キャンパスにおいて『春のキャンパス一斉清掃』を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、マスクを着用し、密にならないように人と人の距離を確保しながらの実施となりましたが、当日は天候にも恵まれ、函館キャンパス構内とその周辺の清掃を行うことができました。

参加人数は、学生・教職員をあわせて約170名となり、多くの方に参加いただきました。

収集されたごみ等は、一般ごみ、産業廃棄物（金属やプラスチックの混合物）、木の枝等を合わせて約1.0㎥となりました。

これからも環境美化活動を推進し、きれいなキャンパスを目指します。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



清掃活動を行う教員と学生



清掃活動を行う職員



清掃活動を行う学生



収集したごみ

北図書館に「スペイン関連図書 特設コーナー」を設置

附属図書館（北図書館）では、4月15日（金）から6月15日（水）まで、「スペイン関連図書 特設コーナー」を設置しました。

この企画は、メディア・コミュニケ

ーション研究院の増田哲子准教授をはじめとするスペイン語担当教員との協力により実施しました。スペイン語圏の言語や文化、歴史に関する図書112冊と教員からの推薦文を添えて展示

し、うち32冊が延べ58回貸し出されました。

（附属図書館）



展示の様子

附属図書館が「文献収集セミナー（文系の方向け）」を開催

附属図書館では6月8日（水）、9日（木）、14日（火）に、「文献収集セミナー（文系の方向け）」の講習会を開催しました。この講習会は、これから本格的な論文執筆に着手する本学の学部3年生から大学院修士課程1年生の文系の方を主な対象として、文献収集に役立つ様々なデータベースの紹介や検索のテクニックを習得することを目的に、対面形式にて実施しています。

各日とも、「基礎編」と「応用編」の2つのコースを開設し、それぞれ日本語文献、海外文献の検索方法を図書館職員が解説しました。受講生は講師の説明のもとで一緒にデータベースを操作し、実際に検索方法を学ぶことができました。

3日間合計で、基礎編33名、応用編22名の参加があり、実施後の受講者アンケートでは「独力では知ることので

きない情報を得ることができた」「普段使っていない機能を使用できて今後に生かせそうでよかった」などの意見が寄せられました。また、満足度においても、「満足」と「どちらかといえれば満足」で合計100%となり、受講者の満足度の高さが伺えました。

（附属図書館）

2022年度 アカデミックスキルセミナー

これから研究をはじめの方必見！

文献収集セミナー （文系の方向け）

図書、論文、統計の入手方法
および文献管理ツールを紹介します！

主な対象：文系の学生（学部3年生～修士1年生）

<開催日時> ※どの日にちも内容は同じです。

6/8 (水)	15:00-16:10 (基礎編)	16:30-18:00 (応用編)
6/9 (木)	15:00-16:10 (基礎編)	16:30-18:00 (応用編)
6/14 (火)	15:00-16:10 (基礎編)	16:30-18:00 (応用編)

※詳細は以下のサイトをご覧ください。
<https://www.lib.hokudai.ac.jp/?p=103534>

附属図書館学習支援企画担当 nrefelib.hokudai.ac.jp (Tel:011-706-5593)

ポスター

北極域研究センターが北海道フィンランドウィーク「サイエンスDAY」をハイブリッドで開催

5月30日（月）、北極域研究センターは、観光学高等研究センター、駐日フィンランド大使館との協働で、本学フード&メディカルイノベーション拠点多目的ホールを会場に、対面及びオンラインのハイブリッド方式で、北海道フィンランドウィーク「サイエンスDAY」を開催しました。北海道フィンランドウィークは、駐日フィンランド大使館、ビジネスフィンランド等が主催し、5月28日（土）～6月3日（金）の期間、フィンランドのサウナや文化、教育&子育て、スタートアップ等についての紹介、また、持続可能な未来に向けた共通の課題について意見を交わす北海道では初開催のイベントで、「サイエンスDAY」は、その一環として開催されたものです。

「サイエンスDAY」は、ペッカ・オルパナ駐日フィンランド大使と本学

の横田 篤理事・副学長の挨拶で、北海道大学とフィンランドの大学との交流が長く続いていること、北極圏及び北方圏の持続可能な開発における両国の協力の実績が確認され、その後2つのセッションが行われました。

第1部「北極圏と北方圏のスマートソリューション研究」では、デジタル化、e-ヘルス、その他のオンラインサービスの可能性や課題、新しいモバイル通信規格等が取り上げられ、議論は遠隔地に住む人々の安全保障と通信インフラへのアクセス等のニーズを中心に展開されました。ラップランド大学、オウル大学の研究者をはじめ、本学保健科学研究院の小笠原克彦教授、情報科学研究院の日景隆助教を含む計6名が発表し、山本 強本学名誉教授の挨拶で第1部を締めくくりました。

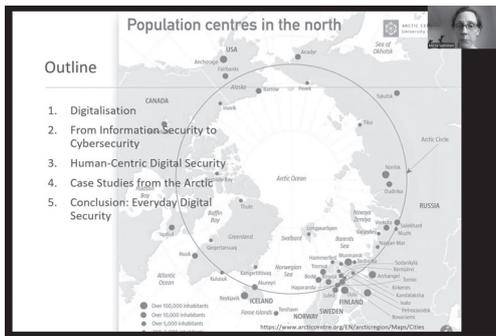
産学官連携に焦点を当てた第2部

「サーミとアイヌの文化と観光」では、研究者やその他のステークホルダー5名が発表しました。フィンランドからはサーミ議会や民間企業の代表によりベストプラクティスが共有され、本学からはメディア・コミュニケーション研究院のエデルヘイム・ヨハン教授、観光学高等研究センターの福山貴史博士研究員が発表しました。質疑応答では、サーミとアイヌが関わる観光について数多くの共通点が指摘され、伝統文化の活性化や非先住民族による認識と理解の深化を含むメリットや、先住民族の伝統的知識や文化の不正使用、不正利用等の問題について活発な議論が行われました。当日の会場及びオンラインによる参加者は60名を超え、盛会のうちに終了しました。

（北極域研究センター）



横田理事・副学長による挨拶



ハイブリッド会議開催様子



オルパナ駐日フィンランド大使による挨拶

■お知らせ

「北海道大学の役職員の給与等の水準（令和3年度）」の概要について

独立行政法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表に関する政府決定等及び国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、本学の役員の報酬等、職員の給与水準及び総人件費について、令和3年度分の概要をお知らせします。

令和3年度における役員の報酬等の支給状況

	役員11人（法人の長、理事（8人）、監事（2人））
年間報酬等の総額	150,647千円

令和3年度における職員の給与水準

	比較対象人員数（注1）	平均年齢	令和3年度 年間給与額（平均）
事務・技術職員	988人	42.3歳	5,718千円
教育職員（大学教員）（注2）	1,066人	49.4歳	8,700千円
医療職員（病院看護師）	391人	41.2歳	5,825千円

注1)「比較対象人員数」は、令和4年4月1日現在、在職している常勤職員（令和3年度途中の採用者及び異動者等を除く。）である。

注2)「教育職員（大学教員）」は、年俸制教員を除く。

総人件費

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増△減	
給与、報酬等支給総額（A）（注1）	千円 29,627,140	千円 29,442,337	千円 184,803	% 0.6
退職手当支給額（B）（注1）	千円 2,448,813	千円 1,222,154	千円 1,226,659	% 100.4
非常勤役職員等給与（C）（注2）	千円 14,438,017	千円 13,659,635	千円 778,382	% 5.7
福利厚生費（D）（注3）	千円 6,520,888	千円 6,331,758	千円 189,130	% 3.0
最広義人件費（A+B+C+D）	千円 53,034,859	千円 50,655,885	千円 2,378,974	% 4.7

注1)「給与、報酬等支給総額」及び「退職手当支給額」は、常勤役員及び常勤職員に支払われた報酬（給与）、賞与、その他の手当の総額並びに退職手当の総額である。

注2)「非常勤役職員等給与」は、非常勤役員及び非常勤職員等に支払われた給与及び退職手当の総額である。

注3)「福利厚生費」は、全ての役員及び職員（非常勤職員等を含む。）に係る法定福利費と法定外福利費の総額である。

※本概要の詳細については、本学ホームページ（広報・公開、情報公開、法令等に基づく公表事項、その他公表事項）に掲載しています。（<https://www.hokudai.ac.jp/pr/johokokai/pub/other/>）

（総務企画部人事課）

博士學位記授与

6月30日（木）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は23人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は1人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（法学）	もりなが 悠太 盛永 悠太	日本の学問の自由とアメリカのアカデミック・フリーダム——高柳信一『学問の自由』再訪—— 主査：教授 西村 裕一
	やまだ けん 山田 健	港湾をめぐる中央－地方関係と政策過程の行政史 戦後復興・高度成長期日本の現場行政を中心に 主査：教授 山崎 幹根
博士（水産科学）	しょう ちゅんち 蒋 春啓	Pangenome analyses of <i>Halioticoli</i> , <i>Ponticus</i> , and <i>Splendidus</i> clades in the family <i>Vibrionaceae</i> (ビブリオ科の <i>Halioticoli</i> , <i>Ponticus</i> および <i>Splendidus</i> クレードのパンゲノム解析) 主査：教授 井上 晶
	ヒ ユン フー HUYNH HUU ト オ THO	THE EFFECTS OF VERTICAL COOPERATION ON ECONOMIC EFFICIENCY OF PANGASIUS FARMS WITH A CASE STUDY IN VIETNAM (パンガシウス属魚類の内水面養殖の経済効率性に対する垂直統合の影響と効果：ベトナムでの事例研究から) 主査：教授 藤森 康澄
博士（環境科学）	たむら けんた 田村 健太	Regional characteristics of winter cyclone activity around Hokkaido and its multidecadal trend associated with surface pressure patterns over Northeast Asia (北海道周辺における冬季低気圧活動の地域特性と北東アジアの気圧配置に関連した数十年規模の傾向) 主査：准教授 佐藤 友徳
	おう ねい 王 寧	中国雲南省における女子高校生への教育支援に関する事例研究－非経済的支援の長期的な効果について－ 主査：教授 山中 康裕
博士（理学）	やす がひら ゆうすけ 安ヶ平 裕介	On a mathematical modeling and a computer-aided analysis for self-propelled systems (自己駆動系に対する数理モデリングと計算機援用解析について) 主査：教授 長山 雅晴
博士（生命科学）	サンプリース Sampreeth サイール Thayyil	Dynamic Control of Microbial Movement by Photoswitchable ATP Antagonists (光応答性ATPアンタゴニストによる微生物の運動の可逆的制御) 主査：教授 玉置 信之
博士（教育学）	ちゅう げつ 張 玥	日本の都市に嫁いだ中国人女性—結婚までの経緯と結婚後の適応の過程— 主査：准教授 鳥山 まどか
博士（国際広報メディア）	しらき ひろやす 白崎 弘泰	技能実習生の日本における生活の実態とその特徴—コミュニティの形成状況からの考察— 主査：准教授 田邊 鉄
博士（工学）	キム グス KIM GEUN WOO	Growth Morphology of Solidification Microstructure and Anisotropy of Solid-liquid Interfacial Energy (凝固組織の成長形態と固液界面エネルギーの異方性) 主査：教授 大野 宗一
博士（理学）	い ぎょれ 李 ギョレ	Site-Switchable Dynamic Nuclear Polarization NMR Measurement on Dynamics of Liposome-Environment Water (リポソーム近傍の水のダイナミクスの位置可変型動的核分極NMRによる計測) 主査：教授 石森 浩一郎

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（医学）	おかだ なおき 岡田 尚樹	肝がんにおけるDGK α 阻害による抗腫瘍効果の機序解明に関する研究 (Studies on the antitumor effects of DGK α inhibition on hepatocellular carcinoma) 主査：教授 小林 弘一	
	まえだ たまき 前田 珠希	日本におけるFive to Fifteen (FTF) の因子構造とADHD児への臨床応用 (Factor analysis of Five to Fifteen (FTF) in Japanese children and its clinical application to children with ADHD) 主査：教授 田中 真樹	
	ジヤン ジン CHANG Ching プ Pu	Anatomical Study on Neuronal Circuitry in Medial Prefrontal Cortex and Development of a New Device for Optical Study (内側前頭前野の神経回路に関する解剖学的研究および光学的研究のための新規デバイス開発) 主査：教授 神谷 温之	
	ジョ ドウチ 徐 道知	Studies on the roles of EMT-associated microRNAs in cervical cancer and aggressive endometrial cancer (子宮頸癌及び高悪性度子宮体癌の上皮間葉転換におけるmicroRNAの役割とその作用メカニズムの解明に関する研究) 主査：教授 谷口 浩二	
博士（獣医学）	ニンベット NINPETCH ナタポン Nattapong	Role of metabolic and endocrine factors in an alteration of the endometrial epidermal growth factor concentration in repeat breeder dairy cows (乳用リピーターブリーダー牛の子宮内膜上皮成長因子濃度異常における代謝および内分泌因子の役割) 主査：教授 坪田 敏男	
	じんぼ みな 神保 美渚	Feeding ecology of Hokkaido brown bears: Region, age and sex differences in the consumption of high-energy foods revealed by hair stable isotope analysis (ヒグマの採食生態：体毛安定同位体比分析で明らかとなった高エネルギー食物の利用における地域・年齢・性別による差異) 主査：教授 石塚 真由美	
	いしぎき ていた 石崎 禎太	Studies on DNA methylation changes in canine malignant melanoma (犬の悪性黒色腫におけるDNAメチル化の変化に関する研究) 主査：教授 滝口 満喜	
博士（文学）	レヴェンテ モルナル Levente Molnar	ハンガリーの映画監督ヤンチャー・マイクロシュの空間表象に関する研究 主査：教授 応 雄	
	リ ナ 李 娜	日本語可能構文の統語語用論的研究 主査：教授 加藤 重広	
博士（学術）	ヴィクトリア VIKTORIJA アントネンコ ANTONENKO	The Political Economy of Russia's Farthest Borderland: A History of Sakhalin Customs between Capital Intentions and Local Realities, 1910 - 1950s (ロシアの最も遠い国境地帯の政治経済学：首都の意図と地方の現実との間のサハリン税関史、1910年から1950年代) 主査：教授 ウルフ デイビッド	
博士（情報科学）	マテウシュ Mateusz バビエノ Babieno	Automatic Metaphor Detection in Japanese and English Using Machine Learning (日本語及び英語における機械学習を用いたメタファーの自動検出) 主査：教授 荒木 健治	

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（獣医学）	さきおか かずよし 笹岡 一慶	Studies on the Clinical Usefulness of the Evaluation of Cerebral Blood Flow Using Transcranial Doppler Ultrasonography in Dogs (犬における経頭蓋超音波ドプラ法を用いた脳血流評価の臨床的有用性に関する研究) 主査：教授 木村 享史	

表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
4.6.2	ソウル大学校（大韓民国） Se-jung Oh 学長	今後の交流に関する懇談
4.6.8	駐日オーストラリア大使館 Janine Pitt 参事官（教育・研究）	今後の交流に関する懇談
4.6.17	駐日インドネシア共和国大使館 Heri Akhmadi 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
4.6.21	在札幌中華人民共和国総領事館 劉 亜明 総領事	今後の交流に関する懇談
4.6.27	メルボルン大学（オーストラリア連邦） Duncan Maskell 学長	今後の交流に関する懇談及び北海道大学・メルボルン大学共同研究ワークショップスファンド採択授与式



Se-jung Oh ソウル大学校学長（中央右）



Janine Pitt
駐日オーストラリア大使館参事官（教育・研究）（左から3人目）



Heri Akhmadi 駐日インドネシア共和国特命全権大使（中央左）



劉 亜明 在札幌中華人民共和国総領事館総領事（中央）



Duncan Maskell メルボルン大学学長（右から6人目）

（国際部国際連携課）

人事

令和4年7月1日付発令

新職名(発令事項)	氏名	旧職名(現職名)
【部局長・施設長等】 創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点長 (期間：令和6年3月31日まで)	長谷山 美紀	大学院情報科学研究院教授
【教授】 大学院地球環境科学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院獣医学研究院教授	藤原 正智 柳澤 達也 吉田 紘行 今内 覚	大学院地球環境科学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院獣医学研究院准教授

新任部局長等紹介

令和4年7月1日付

創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点長に



はせやま みき
長谷山 美紀 教授

令和4年7月1日付けで創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点が設置され、拠点長として長谷山美紀教授が発令されました。

任期は、令和6年3月31日までです。

略歴

生年月日 昭和38年7月18日
昭和61年 3月 北海道大学工学部卒業
昭和63年 3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
平成元年 8月 北海道大学応用電気研究所助手
平成4年 4月 北海道大学電子科学研究所助手
平成5年 9月 博士(工学)(北海道大学)
平成6年 1月 北海道大学工学部助教授
平成9年 4月 北海道大学大学院工学研究科助教授
平成16年 4月 北海道大学大学院情報科学研究科助教授
平成18年 4月 北海道大学大学院情報科学研究科教授
平成25年 4月 } 北海道大学役員補佐
平成26年 3月 }
平成26年 4月 } 北海道大学総長補佐
令和2年 3月 }
平成28年10月 北海道大学国際連携研究教育局・大学院情報科学研究科教授
平成29年 4月 } 北海道大学総合IR室副室長
令和2年 3月 }
平成29年 7月 } 北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター長
令和3年 3月 }
平成30年 4月 } 北海道大学大学院情報科学研究科副研究科長
平成31年 4月 }
平成31年 4月 } 北海道大学大学院情報科学研究院副研究科長
令和2年 3月 }
平成31年 4月 北海道大学国際連携研究教育局・大学院情報科学研究科教授
令和2年 4月 北海道大学大学院情報科学研究科長・情報科学院長
令和2年10月 北海道大学副学長
令和2年10月 北海道大学総合IR室長
令和3年 4月 北海道大学大学院情報科学研究科教授
令和4年 4月 北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター長

新任教授紹介

令和4年7月1日付



地球環境科学研究院教授に

ふじわら まさとも
藤原 正智 氏

地球圏科学部門
大気海洋物理学分野

生年月日

昭和46年10月9日

最終学歴

東京大学大学院理学系研究科修了（平成11年3月）
博士（理学）（東京大学）

専門分野

大気科学



理学研究院教授に

やなぎさわ たつや
柳澤 達也 氏

物理学部門凝縮系物理学分野

生年月日

昭和51年7月23日

最終学歴

新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了（平成16年3月）
博士（理学）（新潟大学）

専門分野

超音波電子物性



理学研究院教授に

よしだ ひろゆき
吉田 紘行 氏

物理学部門電子物性物理学分野

最終学歴

東京大学大学院新領域創成科学研究科博士後期課程修了（平成21年3月）
博士（科学）（東京大学）

専門分野

新物質科学



獣医学研究院教授に

こんない きとる
今内 覚 氏

病原制御学分野感染症学教室

生年月日

昭和46年9月23日

最終学歴

北海道大学大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程 単位取得後退学
博士（獣医学）（北海道大学）

専門分野

感染免疫、腫瘍免疫、臨床免疫

訃報

名誉教授 おかだ ひさたけ 岡田 尚武 氏
(享年78歳)



名誉教授 岡田尚武 先生が令和4年6月15日にご逝去されました。

岡田先生は、昭和19年3月4日富山県に生まれ、昭和41年3月北海道大学理学部地質学鉱物学科を卒業、昭和46年3月同大学理学研究科理学専攻博士課程を修了し理学博士の学位を取得されました。その後、米国ウッズホール海洋研究所及びラumont・ドレー地質学研究所で研究に従事され、昭和51年

11月山形大学理学部地球科学教室助教授に任ぜられ、昭和63年4月には同大学教授に昇任されました。平成7年4月に北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻科教授に転任し、その後、平成7年4月に同大学院自然史科学部門地球惑星システム科学分野所属となり、平成19年3月31日に定年退職されました。本学では平成13年5月に評議員、平成15年5月1日に理学研究科研究科長・理学部長、平成18年4月1日に理学研究院長・理学院長・理学部長を任ぜられ、さらに、平成19年4月1日から平成23年3月31日まで理事・副学長を務められ本学の運営と発展に尽力されました。

研究面では、ナノ化石の世界的な権威として、微古生物・古海洋の分野で多くの重要な業績をあげられました。最も大きな業績の一つとして、新生代ナノ化石の化石帯区分の提唱が挙げられます。先生の一連の研究成果に対し

ては、昭和63年には日本古生物学会学術賞、また平成5年に日本地質学会論文賞が授与されました。

岡田先生は、国際深海掘削研究の場で長く一線で活躍されてきました。その上で、統合深海掘削計画（IODP）では、国内連絡員会副委員長、国内科学掘削推進委員会委員、IODP-MI理事会議長及び副議長として、世界の深海掘削計画を牽引されてきました。更に、海洋開発機構機関評価会議委員、文部科学省科学技術・学術審議会専門委員、日本学術振興会特別研究員等審議会専門委員、日本学術会議連携会員、日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会IUGS小委員会委員として、学術振興にご尽力されました。

岡田先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大なご貢献に感謝申し上げます。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(理学院・理学研究院・理学部)

名誉教授 あらか 荒谷 のほる 登 氏
(享年88歳)



名誉教授 荒谷 登 先生が令和4年6月13日にご逝去されました。

荒谷先生は昭和8年10月3日に北海道に生まれ、昭和31年3月に北海道大学工学部建築工学科を卒業し、3年間の大成建設株式会社勤務の後、同34年4月に北海道大学工学研究科修士課程に入学、同36年修了、同年4月より北海道大学工学部に講師として採用され、同37年に助教授、同49年4月に教授に昇任され、建築工学科建築環境学講座を担当して建築環境・建築設備の分野の発展に努力され、平成9年3月に定年退職、同年4月より名誉教授の称号が授与されました。平成25年5月には瑞宝中綬章を受章されています。

研究面では、北海道大学にて主として建物の熱特性と熱環境計画に関する研究に取組まれ、寒冷地の住居の熱環

境改善と室温及び熱負荷の非定常伝熱解析の分野で独創的かつ先端的な研究を行い、この分野の発展に貢献しました。昭和37年と同40年には冬期札幌オリンピックに向けて、北海道から“住宅団地の集中暖房の可能性に関する調査研究”の委託を2度にわたって受け、その成果に対して昭和44年には空気調和衛生工学会論文賞が与えられました。昭和48年には住居の熱環境計画への研究で北海道大学から工学博士の学位を受け、これに対して同51年度の日本建築学会論文賞が与えられました。また、北海道建築指導センターから出版した寒地系住宅の熱環境計画に関する5冊の小冊子は、一般市民向けに書かれたやさしい内容ですが、その中で繰り返し訴えられている地域性や自然エネルギーの個性の尊重、持っている特質をより一層顕著にする“奪い合うことのない成長”などは、これからの持続可能な成長への大切な指針であり、これらの成果に対して平成9年北海道新聞文化賞「寒地住宅の熱環境研究」、平成23年日本建築家協会北海道支部キタコブシ賞、平成26年日本建築学会教育賞（教育業績）「積雪寒冷地における建築環境学に基づいた断熱・気密技術、住生活の啓発活動に関する業績」を授与されています。

大学運営においては、北海道大学施

設計画委員会（地域暖房計画）専門委員、発明特許委員会委員、学術審議会専門委員会委員、テレビ講座専門委員会委員、工学部では教授会の運営に関する検討委員会委員、大学院制度委員会委員を勤められ、工学部の運営に参画するとともに、その発展に尽くされました。

学協会においては、日本建築学会評議員、同北海支部長、同常議員（幹事）、同各種専門委員会主査、空気調和・衛生工学会理事、同評議員、同北海道支部長、同常議員など、わが国の熱環境・建築設備関係の学協会の委員を歴任し、学術の進展に大いに寄与するとともに、各種国際会議（Room Air Convection and Ventilation Effectiveness 1992、Room Vent 1996、Passive Low Energy Architecture 1996、Megastock 1997）の日本委員会組織委員、北海道メーソントリー建築協議会と北海道外断熱建築協議会、さらに北海道建築技術協会の会長を創設時より務めるなど、国際交流と地域の建築業界の断熱や設備の諸技術の発展にも大きく貢献されました。

ここに荒谷先生の生前の多大なるご功績に敬意を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(工学院・工学研究院・工学部)

令和3年度卒業・修了者の就職等状況一覧

1. 就職等状況

学部

令和4年5月1日現在

	文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部		歯学部		薬学部		工学部		農学部		獣医学部		水産学部		合計			
	人数(名) (うち女子)																											
(A) 卒業者数	184	(84)	49	(22)	237	(73)	196	(39)	307	(67)	103	(20)	167	(118)	42	(16)	47	(13)	674	(83)	215	(90)	40	(13)	208	(62)	2,499	(716)
(B) 就職希望者数	133	(63)	33	(14)	150	(50)	169	(33)	40	(10)	0	(0)	98	(76)	0	(0)	1	(1)	106	(21)	36	(20)	32	(12)	60	(21)	882	(334)
(C) 就職者数	116	(57)	32	(13)	143	(50)	165	(31)	29	(7)	0	(0)	95	(75)	0	(0)	1	(1)	100	(21)	36	(20)	32	(12)	54	(20)	827	(320)
(内数)；道内就職者	43	(24)	8	(4)	56	(24)	56	(12)	7	(2)	0	(0)	63	(49)	0	(0)	1	(1)	25	(5)	7	(4)	8	(3)	19	(5)	300	(139)
；有職者	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
(D) 就職率(%)	87.2	(90.5)	97.0	(92.9)	95.3	(100.0)	97.6	(93.9)	72.5	(70.0)	-	-	96.9	(98.7)	-	-	100.0	(100.0)	94.3	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	90.0	(95.2)	93.8	(95.8)
昨年度の就職率(%)	87.8	(88.6)	85.4	(100.0)	88.1	(87.0)	91.4	(94.1)	80.0	(66.7)	-	-	100.0	(100.0)	-	-	100.0	(100.0)	90.3	(95.5)	98.1	(100.0)	100.0	(100.0)	82.2	(84.6)	90.8	(93.7)
(E) 進学者数	38	(15)	13	(5)	52	(13)	18	(2)	242	(51)	1	(0)	60	(36)	0	(0)	45	(11)	548	(61)	177	(70)	5	(1)	140	(38)	1,345	(306)
(内数)；大学院	38	(15)	13	(5)	52	(13)	18	(2)	242	(51)	1	(0)	49	(25)	0	(0)	45	(11)	548	(61)	177	(70)	4	(1)	140	(38)	1,332	(294)
；(本学進学者数)	[31]	[(13)]	[12]	[(5)]	[27]	[(8)]	[16]	[(2)]	[218]	[(45)]	[0]	[(0)]	[45]	[(21)]	[0]	[(0)]	[43]	[(11)]	[525]	[(56)]	[158]	[(58)]	[2]	[(0)]	[132]	[(34)]	[1213]	[(254)]
；大	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	13	(12)
；(本学進学者数)	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[1]	[(0)]	[0]	[(0)]	[2]	[(11)]
(F) その他	30	(12)	4	(4)	42	(10)	13	(6)	36	(9)	102	(20)	12	(7)	42	(16)	1	(1)	26	(1)	2	(0)	3	(0)	14	(4)	327	(90)

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※医学部医学科は卒業後2年間、歯学部は卒業後1年間の臨床研修期間がある。

修士課程

	法学 研究科		水産 科学院		環境 科学院		理学院		農学院		生命科学 学院		教育学院		国際広報 メディア ・観光学院		保健 科学院		工学院		総合 化学院		経済学院		医学院		医学院 (公衆衛生学 コース1年)		医理工 学院		国際食 資源学院		文学院 ・文学 研究科		情報科学 ・情報科学 研究科		合計			
	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)	人数(名) (うち女子)																			
(A) 修了者数	19	(12)	90	(21)	156	(48)	110	(28)	166	(63)	122	(50)	42	(24)	54	(39)	53	(30)	362	(57)	144	(28)	43	(25)	16	(8)	1	(0)	12	(2)	20	(11)	93	(51)	183	(16)	1,686	(513)		
(B) 就職希望者数	12	(6)	81	(16)	113	(31)	76	(21)	134	(46)	77	(29)	28	(17)	32	(25)	39	(23)	320	(47)	114	(25)	30	(16)	6	(3)	1	(0)	10	(1)	16	(10)	48	(27)	163	(16)	1,300	(359)		
(C) 就職者数	9	(6)	79	(16)	109	(30)	73	(20)	133	(45)	77	(29)	23	(12)	29	(22)	37	(22)	312	(45)	105	(22)	29	(15)	6	(3)	1	(0)	8	(0)	15	(9)	34	(19)	138	(15)	1,237	(330)		
(内数)；道内就職者	1	(1)	10	(2)	20	(5)	17	(4)	13	(5)	5	(3)	12	(7)	7	(5)	16	(9)	21	(4)	7	(2)	1	(1)	3	(2)	1	(0)	4	(0)	3	(1)	13	(6)	17	(0)	171	(57)		
；有職者	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	4	(1)	1	(0)	2	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	10	(2)		
(D) 就職率(%)	75.0	(100.0)	97.5	(100.0)	96.5	(96.8)	96.1	(95.2)	99.3	(97.8)	100.0	(100.0)	82.1	(70.6)	90.6	(88.0)	94.9	(95.7)	97.5	(95.7)	92.1	(88.0)	96.7	(93.8)	93.9	(85.7)	100.0	(100.0)	100.0	-	80.0	-	93.8	(90.0)	70.8	(70.4)	96.9	(83.8)	95.2	(91.9)
昨年度の就職率(%)	55.6	(70.0)	100.0	(100.0)	91.4	(88.4)	92.9	(100.0)	95.9	(94.8)	97.5	(96.9)	86.7	(78.9)	71.1	(75.0)	100.0	(100.0)	97.8	(93.3)	93.6	(97.3)	73.9	(76.9)	90.9	(85.7)	100.0	(100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0	86.0	(84.0)	96.6	(85.0)	94.0	(91.1)		
(E) 進学者数	3	(2)	8	(4)	34	(14)	27	(5)	21	(9)	31	(11)	7	(2)	6	(4)	8	(3)	25	(4)	28	(2)	3	(1)	7	(3)	0	(0)	2	(1)	3	(0)	28	(13)	19	(0)	260	(78)		
(内数)；大学院	3	(2)	8	(4)	33	(13)	27	(5)	21	(9)	31	(11)	7	(2)	6	(4)	8	(3)	25	(4)	28	(2)	3	(1)	7	(3)	0	(0)	2	(1)	3	(0)	27	(13)	19	(0)	258	(77)		
；(本学進学者数)	[3]	[(2)]	[7]	[(3)]	[31]	[(12)]	[26]	[(4)]	[20]	[(9)]	[29]	[(10)]	[6]	[(2)]	[6]	[(4)]	[8]	[(3)]	[21]	[(4)]	[25]	[(2)]	[3]	[(1)]	[7]	[(3)]	[0]	[(0)]	[2]	[(1)]	[3]	[(0)]	[26]	[(13)]	[19]	[(0)]	[242]	[(73)]		
；大	0	(0)	0	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	2	(1)		
；(本学進学者数)	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]		
(F) その他	7	(4)	3	(1)	13	(4)	10	(3)	12	(9)	14	(10)	12	(10)	19	(13)	8	(5)	25	(8)	11	(4)	11	(9)	3	(2)	0	(0)	2	(1)	2	(2)	31	(19)	6	(1)	189	(105)		

※A=C+E+F・D=C÷B×100

専門職大学院

	法科大学院 (法学研究科)		会計専門職大学院 (経済学院)		公共政策大学院 (公共政策学部)		合計	
	人数(名)	(うち女子)	人数(名)	(うち女子)	人数(名)	(うち女子)	人数(名)	(うち女子)
(A) 修了者数	21	(4)	17	(5)	28	(9)	66	(18)
(B) 就職希望者数	0	(0)	9	(3)	25	(8)	34	(11)
(C) 就職者数	0	(0)	8	(2)	25	(8)	33	(10)
(内数) 道内就職者	0	(0)	4	(1)	10	(3)	14	(4)
有職者	0	(0)	1	(0)	0	(0)	1	(0)
(D) 就職率(%)	-	-	88.9	(66.7)	100.0	(100.0)	97.1	(90.9)
昨年度の就職率(%)	100.0	-	80.0	(88.9)	84.6	(83.3)	83.7	(86.7)
(E) 進学者数	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
大学院	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
[本学進学者数]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]
大	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
[本学進学者数]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]
(F) その他	21	(4)	9	(3)	3	(1)	33	(8)

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※法科大学院(F)その他には、修了後に実施される司法試験の受験準備者を含む。

博士課程

	法学研究科	水産科学科	環境科学科	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院	国際広報メディア・観光学院	保健科学科	工学院	総合化学院	経済学院・経済学研究所	医学院・医学研究科	歯学院	獣医学院・獣医学研究科	医工大学院	国際感染症学院	国際食資源学院	文学院・文学研究科	情報科学・情報科学研究科	合計																											
	人数(名) (うち女子)																																															
(A) 修了者数	5	(1)	35	(18)	41	(12)	50	(14)	8	(3)	47	(16)	40	(11)	10	(5)	95	(20)	38	(9)	12	(2)	7	(0)	19	(7)	6	(4)	31	(13)	33	(5)	351	(130)														
うち単位修得退学者数	3	(1)	1	(0)	8	(2)	12	(4)	7	(2)	6	(1)	5	(1)	6	(2)	1	(1)	6	(0)	3	(1)	3	(0)	4	(2)	0	(0)	0	(0)	1	(1)	8	(4)	3	(0)	82	(24)										
(B) 就職希望者数	5	(1)	29	(14)	33	(9)	41	(10)	37	(10)	37	(11)	8	(5)	37	(6)	10	(2)	4	(0)	11	(2)	5	(3)	24	(10)	5	(3)	22	(10)	30	(5)	443	(106)														
(C) 就職者数	5	(1)	25	(12)	32	(8)	38	(9)	35	(9)	3	(1)	8	(3)	7	(2)	37	(4)	33	(9)	7	(4)	85	(14)	33	(6)	10	(2)	4	(0)	11	(2)	5	(3)	7	(4)	5	(0)	194	(42)								
(内数) 道内就職者	4	(1)	3	(1)	13	(6)	5	(0)	10	(3)	13	(3)	2	(1)	4	(1)	6	(2)	7	(1)	6	(1)	3	(1)	77	(12)	19	(4)	5	(1)	3	(0)	1	(0)	1	(0)	7	(4)	5	(0)	100	(42)						
有職者	0	(0)	3	(0)	3	(3)	5	(4)	11	(3)	7	(6)	2	(1)	4	(1)	0	(0)	7	(1)	3	(1)	2	(1)	44	(5)	6	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	3	(2)	7	(0)	108	(22)								
(D) 就職率(%)	100.0	(100.0)	86.2	(85.7)	97.0	(88.9)	92.7	(90.0)	88.9	(75.0)	87.5	(66.7)	92.5	(80.0)	89.2	(81.8)	87.5	(80.0)	98.8	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	91.7	(100.0)	93.8	(100.0)	94.7	(90.6)								
昨年度の就職率(%)	100.0	(100.0)	95.2	(91.7)	100.0	(100.0)	96.4	(100.0)	90.0	(83.3)	91.9	(84.6)	96.9	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	100.0	(100.0)	83.3	(66.7)	87.5	(33.3)	94.8	(90.5)								
(E) 進学者数	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)								
(内数) 大学院	0	(0)	0	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)						
[本学進学者数]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]						
大	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)						
[本学進学者数]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]	[0]	[(0)]						
(F) その他	0	(0)	0	(0)	0	(0)	8	(4)	10	(6)	10	(6)	8	(4)	12	(5)	8	(2)	4	(1)	3	(2)	1	(1)	10	(2)	7	(2)	3	(1)	10	(6)	5	(3)	2	(0)	3	(0)	8	(5)	1	(1)	9	(3)	3	(0)	107	(44)

※A=C+E+F・D=C÷B×100

※単位修得退学者を便上「修了者」として含める。

※生命科学学院は、後期課程(生命科学専攻)と一貫制課程(臨床薬学専攻)がある。

2. 地域別就職者数

学部

令和4年5月1日現在

企業の所在地	学部		理学部	医学部		歯学部	薬学部		工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
	文学部	教育学部		法学部	経済学部		医学部	理学部					
北海道	就職者数 28 (15)	就職者数 7 (3)	就職者数 7 (2)	就職者数 49 (10)	就職者数 57 (46)	就職者数 6 (3)	就職者数 1 (1)	就職者数 6 (5)	就職者数 23 (5)	就職者数 5 (2)	就職者数 5 (2)	就職者数 14 (4)	地域別就職者数 256 (118)
札幌市以外	就職者数 15 (9)	就職者数 1 (1)	就職者数 1 (0)	就職者数 7 (2)	就職者数 6 (3)	就職者数 1 (1)	就職者数 1 (1)	就職者数 1 (1)	就職者数 2 (0)	就職者数 2 (2)	就職者数 3 (1)	就職者数 5 (1)	44 (21)
青森県	1 (1)				1 (1)				1 (1)				4 (3)
岩手県													0 (0)
宮城県	2 (1)			1 (0)	1 (1)			1 (1)	2 (0)		1 (0)	1 (0)	9 (3)
宮城県			1 (0)										2 (0)
秋田県									1 (0)				1 (0)
山形県													0 (0)
福島県													0 (0)
茨城県	2 (1)								1 (0)	1 (0)	1 (1)		5 (2)
栃木県													1 (1)
群馬県									2 (0)				3 (0)
埼玉県	1 (1)			2 (0)	3 (1)			1 (0)	2 (1)	2 (1)	2 (0)		9 (2)
千葉県	45 (18)	10 (3)	61 (21)	80 (18)	14 (11)			12 (5)	52 (10)	16 (8)	10 (3)	24 (11)	334 (111)
東京都	3 (1)		3 (0)	3 (0)	2 (2)				3 (0)		2 (0)	1 (1)	18 (4)
神奈川県													1 (0)
新潟県													1 (0)
富山県	1 (1)	1 (1)		2 (0)					1 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	6 (2)
石川県				1 (0)					1 (1)	1 (1)		1 (0)	6 (4)
福井県													1 (0)
山梨県										2 (0)			2 (0)
長野県	2 (1)			1 (0)									1 (1)
岐阜県													3 (1)
静岡県	2 (1)			2 (0)	2 (1)			1 (1)					1 (1)
愛知県				4 (1)	1 (0)			1 (1)	6 (4)			2 (1)	16 (6)
三重県				3 (0)	1 (0)								2 (0)
滋賀県				1 (0)									5 (2)
京都府	1 (1)			1 (0)									2 (0)
大阪府	7 (2)	2 (0)	6 (1)	4 (0)	4 (3)			1 (0)			1 (0)	1 (1)	6 (3)
兵庫県		2 (1)		2 (0)				1 (0)					27 (7)
奈良県				2 (0)				2 (1)	1 (0)				8 (3)
和歌山県								1 (0)					1 (0)
鳥取県													0 (0)
島根県	1 (1)												0 (0)
岡山県													0 (0)
広島県	1 (0)			1 (0)				1 (0)	1 (1)				3 (1)
山口県				1 (0)					2 (2)				5 (2)
徳島県													0 (0)
香川県													1 (1)
愛媛県					1 (1)								1 (0)
高知県													1 (0)
福岡県	1 (1)			1 (0)									0 (0)
佐賀県													3 (1)
長崎県													0 (0)
熊本県	1 (0)												1 (1)
大分県													0 (0)
宮崎県													0 (0)
鹿児島県													0 (0)
沖縄県	1 (1)			1 (0)									2 (1)
海外													2 (1)
就職先詳細不明	2 (2)	8 (3)	1 (1)						1 (0)				17 (6)
合計	116 (57)	32 (13)	143 (50)	165 (31)	95 (75)	0 (0)	1 (1)	24 (13)	100 (21)	36 (20)	32 (12)	54 (20)	827 (320)

※ () は女子で内数

修士課程

企業の所在地	研究科・学院		法学研究科	水産科学院	環境科学院	理学院	農学院	生命科学院	教育学院 国際大学・ 大学院	保健科学院	工学院	総合化学院	経済学院	医学院 (公衆衛生学 専攻)	医理工学院	国際食資源 学院	文学院 文学研究科	情報科学 情報科学専攻	合計	
	就職者数	就職者数																		
北海道	札幌市以外	1 (1)	12 (2)	9 (3)	5 (3)	10 (6)	6 (4)	1 (1)	14 (8)	17 (3)	4 (1)	3 (1)	1 (1)	3 (2)	1 (0)	3 (0)	7 (6)	16 (0)	132 (45)	
	青森県		5 (2)	4 (2)	2 (1)	2 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	4 (1)	4 (1)	3 (1)	1 (0)			1 (1)	6 (0)	1 (0)	39 (12)	
東北	岩手県		1 (0)																2 (1)	
	宮城県		1 (0)	1 (1)															1 (0)	
	秋田県																		3 (1)	
	山形県			1 (0)										1 (0)					1 (0)	
関東	福島県						1 (1)												1 (1)	
	茨城県		2 (0)	4 (1)	2 (1)	1 (0)	2 (1)	2 (1)	2 (2)	4 (0)	1 (0)							2 (0)	16 (2)	
	栃木県						1 (1)			2 (0)									6 (3)	
	群馬県			1 (0)	2 (0)	5 (1)	1 (1)			1 (0)	1 (0)	3 (1)					1 (1)	2 (0)	6 (3)	
	埼玉県		1 (0)	1 (0)	2 (1)	1 (0)	2 (1)	1 (0)		3 (1)	3 (1)	6 (3)					3 (1)	1 (0)	18 (3)	
	千葉県		4 (3)	34 (7)	67 (24)	37 (13)	3 (2)	9 (6)	15 (9)	191 (34)	47 (8)	11 (5)					11 (8)	88 (11)	618 (157)	
	東京都		4 (1)	7 (2)	4 (2)	8 (1)	4 (2)	1 (0)	2 (0)	14 (2)	7 (1)						1 (1)	1 (0)	71 (13)	
	神奈川県		2 (0)					1 (1)											4 (2)	
	富山県			2 (1)	1 (0)						3 (0)	2 (0)							1 (0)	9 (1)
	石川県										2 (0)			1 (0)					1 (0)	4 (0)
中部	山梨県						1 (0)				2 (0)								5 (0)	
	長野県						1 (1)			3 (0)								1 (0)	6 (1)	
	岐阜県																		1 (0)	
	静岡県		2 (0)	3 (1)	2 (2)	3 (1)	1 (0)		1 (1)	3 (0)	1 (0)							1 (0)	6 (1)	
	愛知県		2 (1)	4 (1)	2 (0)						10 (0)	3 (1)	1 (1)					4 (1)	26 (5)	
	三重県		1 (1)			1 (0)				2 (1)	2 (0)								6 (2)	
	滋賀県			2 (1)	2 (1)	3 (3)					1 (1)			1 (0)					9 (6)	
	京都府		1 (0)		4 (0)	1 (0)					2 (0)	4 (1)							5 (0)	18 (1)
	大阪府		3 (0)	5 (2)	1 (1)	7 (1)	4 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	28 (3)	8 (2)		1 (0)	1 (0)		2 (1)	2 (2)	10 (1)	74 (17)
	兵庫県		1 (0)	2 (1)	1 (1)	3 (2)	3 (0)	1 (1)	1 (1)	9 (0)	1 (0)								3 (1)	24 (6)
近畿	奈良県			1 (0)															1 (0)	
	和歌山県		1 (0)				1 (0)												2 (0)	
	鳥取県																		2 (1)	
	島根県																		2 (1)	
	岡山県		1 (0)							1 (1)									2 (1)	
	広島県																		1 (0)	
	山口県			1 (1)							2 (0)	2 (0)							1 (0)	11 (3)
	徳島県																		2 (0)	
	香川県																		1 (1)	
	四国	愛媛県		1 (0)			1 (0)				1 (0)	1 (0)								4 (0)
高知県										1 (0)									1 (0)	
福岡県			1 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)												1 (0)	5 (1)	
佐賀県																			1 (0)	
長崎県							1 (1)												1 (1)	
熊本県																			1 (1)	
大分県																			1 (1)	
宮崎県																			1 (0)	
鹿児島県																			1 (0)	
沖縄県																				1 (0)
							1 (0)												1 (0)	
海外		4 (2)	15 (7)	1 (1)	5 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (7)	8 (0)	4 (2)		13 (8)						68 (30)	
			1 (0)			1 (1)													3 (1)	
就職先詳細不明		9 (6)	79 (16)	109 (30)	73 (20)	133 (45)	77 (29)	23 (12)	29 (22)	37 (22)	312 (45)	105 (22)	29 (15)	6 (3)	1 (0)	8 (0)	15 (9)	158 (15)	1,237 (330)	
合計																				

※ () は女子で内数

専門職大学院

研究科等 企業の所在地	法科大学院 (法学研究科) 就職者数		会計専門職大学院 (経済学院) 就職者数		公共政策大学院 (公共政策学教育部) 就職者数		合 計		
	就職者数	地域別就職者数	就職者数	地域別就職者数	就職者数	地域別就職者数	就職者数	地域別就職者数	
北海道			4	(1)	9	(3)	13	(4)	
札幌市					1	(0)	1	(0)	
札幌市以外									
青森県									
岩手県									
宮城県									
秋田県									
山形県									
福島県									
茨城県									
栃木県									
群馬県									
埼玉県									
千葉県									
東京都			2	(1)	7	(1)	9	(2)	
神奈川県			1	(0)	2	(1)	3	(1)	
新潟県									
富山県									
石川県									
福井県									
山梨県									
長野県									
岐阜県									
静岡県									
愛知県									
三重県									
滋賀県									
京都府									
大阪府									
兵庫県									
奈良県									
和歌山県									
鳥取県									
島根県									
岡山県									
広島県									
山口県									
徳島県									
香川県									
愛媛県									
高知県									
福岡県			1	(0)			1	(0)	
佐賀県									
長崎県									
熊本県									
大分県									
宮崎県									
鹿児島県									
沖縄県									
海外					6	(3)	6	(3)	
就職先詳細不明									
合 計		0	(0)	8	(2)	25	(8)	33	(10)

※()は女子で内数

博士課程

企業の所在地	研究科・学院		法学研究科 就職者数	水産科学 就職者数	環境科学 就職者数	理学院 就職者数	農学院 就職者数	生命科学 就職者数	教育学院 就職者数	国際保健 就職者数	保健科学 就職者数	工学院 就職者数	総合化学 就職者数	経済学 就職者数	医学研究 就職者数	歯学院 就職者数	獣医学 就職者数	医理工学 就職者数	国際 就職者数	国際 就職者数	文学 就職者数	情報科学 就職者数	計
	就職者数	就職者数																					
北海道	札幌市以外	4 (1)	1 (0)	2 (1)	1 (0)	1 (0)	8 (3)	12 (3)	2 (1)	4 (1)	6 (2)	5 (1)	6 (1)	3 (1)	54 (10)	18 (4)	5 (1)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	6 (3)	5 (0)	159 (37)
東北	青森県																						35 (5)
	岩手県					1 (1)	1 (0)									1 (0)				1 (0)			2 (0)
	宮城県																						2 (1)
	秋田県																						0 (0)
	山形県									1 (0)													0 (0)
関東	福島県																						1 (0)
	茨城県		1 (0)	1 (1)	2 (0)	5 (1)						3 (0)	3 (2)										18 (4)
	栃木県							1 (0)															1 (0)
	群馬県						1 (1)																0 (0)
	埼玉県					1 (1)	2 (1)					1 (1)											2 (2)
北陸	東京都		1 (0)	3 (0)	4 (1)	3 (1)	9 (3)	1 (0)		1 (0)		8 (1)	10 (2)		2 (0)	1 (0)		1 (1)		1 (0)			56 (12)
	神奈川県											1 (0)	1 (0)										13 (3)
	新潟県										1 (0)												1 (0)
	富山県																						1 (0)
	石川県						1 (0)																3 (0)
中部	福井県																						0 (0)
	山梨県																						0 (0)
	長野県						1 (0)																0 (0)
	岐阜県																						0 (0)
	静岡県																						0 (0)
近畿	愛知県						2 (0)					3 (0)	1 (0)										2 (0)
	三重県											2 (0)											2 (0)
	滋賀県											2 (0)											2 (0)
	京都府					2 (0)	3 (0)					1 (0)											1 (1)
	大阪府					1 (0)	1 (0)	5 (1)				1 (0)	3 (1)										13 (3)
中国	兵庫県					1 (0)						1 (0)											0 (0)
	奈良県																						0 (0)
	和歌山県																						0 (0)
	鳥取県																						0 (0)
	島根県																						0 (0)
四国	岡山県																						0 (0)
	広島県											1 (0)											3 (2)
	山口県																						0 (0)
	徳島県						1 (0)																1 (0)
	香川県																						0 (0)
九州	愛媛県																						0 (0)
	福岡県			1 (0)		1 (0)	1 (0)								1 (0)								3 (0)
	佐賀県																						0 (0)
	長崎県																						0 (0)
	熊本県																						0 (0)
沖縄県	大分県																						0 (0)
	宮崎県																						0 (0)
	鹿児島県																						0 (0)
海外	就職先詳細不明	1 (0)	4 (1)	3 (3)	7 (3)	7 (2)	3 (1)			2 (2)	7 (1)	4 (2)		2 (1)	4 (1)	3 (0)	3 (0)						70 (26)
合計		5 (1)	13 (2)	25 (12)	32 (8)	38 (9)	35 (9)	3 (1)	8 (3)	7 (2)	37 (4)	33 (9)	7 (4)	85 (14)	33 (6)	10 (2)	4 (0)	11 (2)	5 (3)	22 (10)	30 (5)	443 (106)	

※ () は女子で内数
 ◇生命科学は、後期課程（生命科学専攻）と一貫制課程（臨床薬学専攻）がある。

編集メモ

- 6月23日（木）、高等教育推進機構でたくさんの自転車が駐輪していました。コロナ禍以前と変わらぬ光景に、どこか懐かしさを感じます。自転車利用の交通ルールを守って、北大人生活を満喫してほしいですね。



高等教育推進機構前の様子

- 6月27日（月）、京王プレミアホテル札幌にて、北大短角牛の新メニュー試食会が行われました。昨年度は北大牛乳のコラボメニューを開発した同ホテル。今回は、株式会社わかかの協力も得て「北大短角牛ハラミとハツのコンフィ

ンフィ～プレミア伝統のデミグラスソース山わさび風～」と「北大短角牛ギューパーガー」の2品を開発しました。7月1日（金）から7月31日（日）まで、同ホテルの宿泊者向けに提供されました。



北大短角牛ハラミとハツのコンフィ



北大短角牛ギューパーガー



紙媒体はエルムの森で入手可能

- 今年度版のキャンパスガイドマップができあがりました。紙媒体は、インフォメーションセンター「エルムの森」などで配架していますし、ホームページ上で電子媒体の閲覧も可能です。散策時に、ぜひご活用ください。

（掲載先）ホーム>キャンパスマップ・アクセス>北海道大学キャンパスガイドマップ

https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/campusmap_jp.pdf

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は高等教育推進機構の周辺にあるシラカバです。シラカバは正式名称をシラカンバといい、人工的に作られたような白い樹皮が特徴的。高原を思わせるような光景に自然と足が止まります。久しぶりの「対面」に疲れた時は、構内の散策をしてはいかがでしょうか。ただし、虫刺されにはご注意ください。

キャンパス風景 28 高等教育推進機構周辺（北17条西8丁目）



北大時報 ⑦ No.820 令和4年7月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>